

所属	農学生命科学部	氏名	前田 智雄
課題名	付加価値および生産性の向上を目的とした‘弘前在来’トウガラシ（清水森ナンバ）の交雑育種		

### 1. 概要

弘前の特産物で地域ブランドとして確立しつつある‘弘前在来’トウガラシ（清水森ナンバ）は、伝統品種ゆえの栽培上の弱点を有している（収量性、耐病性など）。本研究では、清水森ナンバの特徴である大長でマイルドな辛み、豊かな風味という特徴はそのままに、収量性や耐病性などの栽培上の付加価値を持たせた新系統の育成を目的とする。

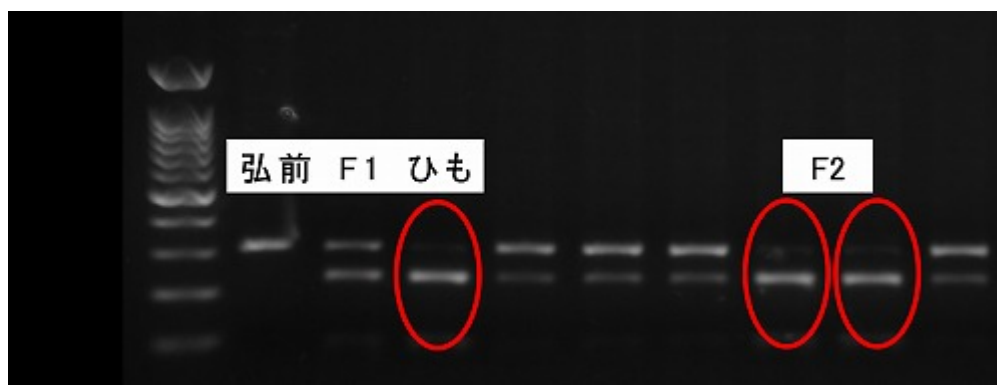
本研究室では上記目的を満たすため、2010年より‘ひも’および‘TSR みおぎ’との交雑育種に取り組んでいる。その中では、交雑育種の他に、DNA マーカーを用いた効率的な選抜技術やウイルスの接種検定、RT-PCR 法によるウイルス感染株の検定など、学術的に先進的な手法も取り入れた総合研究を展開してきた。

これまでに、収量性を改善した中間系統、両親よりも機能性成分カプシエイトを多く含む系統、TSWV（トマト黄化壊疽ウイルス）に抵抗性を示すなどの有望な中間素材を得ている。

2019年度には、これらの中間系統をさらに交雑を重ね、新品種の育成に近づけたいと考えている。また、選抜にはDNA マーカーを実践的に用いる予定である。



(1) 圃場での短節間、多収穫系統の様子



(2) DNA マーカーによる早期選抜の結果 F2 ではひも型のみを植えれば良い

### 2. 画像の説明

(1) 圃場での短節間、多収穫系統の様子

(2) DNA マーカーによる早期選抜の結果 F2 ではひも型のみを植えれば良い